県北西部豪雨

豪雨による山国川の氾濫
甚大な被害に、若松常一郎翁の功績にあらためて感謝

山国川下流、金谷付近、写真奥に見える橋が山国大橋＝7月3日㈫午前10時

活発な梅雨前線の影響で、7月3日、猛烈な雨に見舞われた中津市内。

大分地方気象台によると、特に豪雨の影響を受けた耶馬溪地区が、午後11時までの降水量が251．0ミリと7月の24時間降雨量の最多を記録した。

同日午後、中津商工会議所は市内会員事業所へ被害状況や安否確認を実施。

本耶馬溪、耶馬溪地区の会員事業所の一部では、壊滅的な被害を受けた事業所もあった。

旧中津市内の会員事業所も豪雨の影響を受けたものの大きな被害報告は無かった。

上の写真は、山国大橋、金谷付近の堤防の様子である。昭和19年、この周辺の堤防が決壊し、旧中津市内が水没した悪夢が蘇る。水防に心血をそそぎ私財を投じた若松常一郎翁（第3代中津商工会議所会頭）と現在の堤防。あらためて自然災害による影響の大きさに考えさせられる。

写真上（2枚）が青の洞門付近＝7月3日㈫午前10時45分
写真左が耶馬溪橋＝7月3日㈫午後1時40分

国道212号線、耶馬溪町戸原付近、写真右は道路が決壊＝7月3日㈫午後2時30分

若松常一郎翁（第3代中津商工会議所会頭）

こうした偉大な功績に対し、昭和37年、当時の深尾新吉中津市長と溝口亨中津商工会議所会頭が発起人となり、若松常一郎翁の顕彰碑を建立。その胸像が山国大橋のたもとに建てられているが、経年変化により、囲いが欠損、老朽化も進んでいる。

来年、中津商工会議所は創立80周年を迎えるにあたり当所にも「若松翁顕彰碑の改修移転を」との声が寄せられている。

昭和19年、金谷の堤防が決壊し未曽有の大水害に見舞われた中津市。当時の山国川の堤防は、低く地盤が軟らかいうえに雑草が伸び放題と貧弱なものだった。

激しい雨が降れば、川水が下流に押しかけ堤防を崩し濁流が市街地や田畑に流れ込み、住民は雨が降る度におびえていた。

こうした状況の中、第3代若松常一郎中津商工会議所会頭が立ち上がり、山国川の国営改修の陳情に、私費で上京。

立ちっぱなしの長距離列車に揺られ内務省（現・国土交通省）へ50回以上も足を運んだ。彼の努力と情熱の甲斐あって、昭和23年、堤防本格改修に国の直轄事業で着手。

水防に心血をそそぎ私財を投じ、今の中津市と山国川の安全な生活の礎を築いた。

国道212号線沿い、本耶馬溪町蕨野、写真中央の軽トラックがほぼ浸水している状況＝7月3日㈫午前11時30分

出典：中津市歴史民俗資料館
山国川の堤防、昭和10年頃撮影された金谷付近の堤防の様子。

出典：中津市歴史民俗資料館
大水の復旧作業（昭和19年）、台風で決壊した個所に、砂を詰めた叺（カマス）を運ぶ市民たち。

出典：中津市歴史民俗資料館
山国川の大水害（昭和19年）
昭和19年9月、台風に襲われ山国川の堤防が決壊、日豊線も寸断された。
写真は出水した本町筋の風景。

昭和19年9月洪水

■要　因：台風16号
■降雨量：中津観測所　2日雨量420.0㎜
　　耶馬溪観測所2日雨量249.0㎜
■被　害：中津市、下毛郡、宇佐郡において
　　浸水　約7,800戸
　　浸水面積　約1,600ha

全国商工会議所の『業務災害補償プラン』
～日本商工会議所が推奨する商工会議所の会員企業さまのための保険制度です～

●商工会議所の会員企業の皆様にご加入いただけます!

「業務災害補償プラン」（業務災害補償総合保険『みんなの労災ガード』）は、役員・従業員等の皆様の就業中の事故から会員企業の皆様をお守りする、政府労災保険とは別に独自の補償をご提供するプランです!

保険料　最大57%割引
※割引率は諸条件によって異なります。詳しくは取扱代理店、営業社員までお問い合わせ下さい。

引受保険会社
富士火災 A Chartis company

みんなの労災ガード 業務災害補償総合保険

お問い合わせ先
富士火災海上保険株式会社　行橋支店
〒824-0001　行橋市行事1丁目3-3　☎0930-23-9651

事業主の皆様へ
厚生年金保険・健康保険制度について

次の事業所は、厚生年金保険・健康保険の加入が法律で義務づけられています。

1 すべての法人事業所
（被保険者1人以上）

2 個人事業所
（常時従業員5人以上雇用している）
※但し、一部非適用業種あり

※加入の手続き、ご相談は別府年金事務所へ（☎0977-22-5111）

日本年金機構　検索

日本年金機構ホームページ　http://www.nenkin.go.jp/